

## 公民館を訪ねて

# 歴史と伝統を大切に、人を繋ぐまち「啓蒙」

— 過去から未来へ、笑顔あふれる地域の拠点 —

啓蒙公民館

### 1 啓蒙地区の概要

福井市中心部より北東へ約3kmのところの位置し国道8号線、416号線、市道東環状線、旧勝山街道が通っている。また、えちぜん鉄道勝山線が走り交通の便に恵まれた地域である。主要道路の沿線には大型量販店や商業・娯楽施設が多くあり、日常生活には大変便利な地区となっている。

旧勝山街道沿いには、こんもりと草木が茂る「丸山」(周囲500m、高さ56m)がある。また、清らかな流れの芝原用水が通り田畑が広がる等、まだまだ自然の風景も多く残されている。近年、大型マンションの進出等により若い世代の流入が多く、小学校児童数、未就学児数は年々増加傾向にある。

「啓蒙」の地名は小学校名に由来し、「童蒙の知能と徳を磨く、扉を開いて文明の光を入れる」という意味で啓蒙と名付けられたとされる。小学校の前庭には、九十九橋架替えの際の石の橋脚が立ち(当初2本を校門としていたが昭和30年に1本を市郷土歴史資料館に譲渡)、地区のシンボルとして親しまれている。

平成30年1月1日現在、人口は8,053人、世帯数は3,235戸である。

### 2 地域の歴史を学ぶ

#### ～ 子ども劇「啓蒙キッズ」の取組 ～

平成16年より、啓蒙地区では茨城県結城市との交流事業を推進している。これまで「誇りと夢・わがまち創造事業」実行委員会を中心とした「芝原用水と秀康の歴史を紐解く交流事業」や、地区民による「結城市民劇」観賞、子ども親善大使の交流など、様々な交流活動に取り組んできた。

このような経緯の中で、地域住民や子どもたちに郷土の歴史にさらに関心を深めてもらおうというねらいから、平成23年に「福井学」推進事業として、子ども劇「啓蒙キッズ」を立ち上げた。地区の小学生をはじめ、脚本・監督・美術などもすべて地区住民が行い、毎年10月の地区文化祭で披露している。平成29年度は、10

月22日(日)に行われ、友好都市の結城市から33人の市民訪問団が訪れて同市のおはやし保存連合会の人たちが迫力ある「おはやし」を披露した。

ステージ発表の最後を飾った今回の子ども劇は「お城、完成！ 一秀康、三度の涙」と題し、結城秀康の幼少時代から福井城が完成するまでを、啓蒙小の児童や地区住民が見事に演じた。

また、郷土学習として、劇に必要な鎧(よろい)・兜(かぶと)の制作も行っている。住民から提供された帯や着物などを材料として、鎧・兜を地区有志たちが苦労を重ねて完成させ劇に華を添えた。



### 3 地区住民の癒しの広場

#### ～ 「啓蒙ふれあいわくわく花だん」の活動 ～

平成24年から、公民館前の休耕田を利用して花壇づくりを行っている。花壇名を地区住民から募集して「啓蒙ふれあいわくわく花だん」とし、毎年色とりどりの花が美しく咲いて住民の癒しの場となっている。

年2回の植え替え時には、市民憲章郷土美化部や花壇ボランティアが中心となり、子どもから大人まで多くの住民が参加している。今年は4月から地区住民と福井農林高校の生徒が協力して花壇の整備を行い、8月には、高校生の企画による「ハピネス花壇！完成を祝おう会」を開催した。

平成30年開催の福井しあわせ元気国体にむけて、約980㎡の休耕田全面を花壇とし、ベゴニア・メランポ

ジュウム・サルビア・ジニアなど、30種類1万本の花々が住宅街を明るく彩った。みんなで作り上げた花壇は、平成29年度福井市花壇コンクールの大規模花壇部門で「はびりゅう賞」、福井県はびねす花壇コンクールで「優秀賞」を受賞した。今後も多くの皆様の協力を得て、地域住民の憩いの広場となるよう取組を続けていきたい。



#### 4 地域で子どもを育てる体験事業

公民館が、地域と子どもを繋ぐ学びや体験の場となり、子どもたちの郷土愛を育んだり、異年齢での交流を深めたりすることができるよう、各種団体との連携のもと、様々な事業を実施している。

##### (1)「豊作君」での稲作体験

毎年、青少年育成会が中心となって小学校児童が、「豊作君」と名付けられた田んぼで稲作体験を行っている。今年度から場所を公民館北側の田んぼに変更し、まず5月6日にJA職員や地区ボランティアの方の指導により「田植え」を行った。夏休みの8月23日には、子ども教室「案山子(かかし)づくりに挑戦！」を開催。4年生以上の児童約30名が、「豊作君」に立てる「かかし作り」を実施。そして、9月30日に「稲刈り体験」を行い、11月5日には、もちつき・模擬店・お化け屋敷などの楽しい企画で「収穫祭」を行った。年間を通して子どもたちが稲の育ちを学び、米作りの苦労と収穫の喜びを実体験できる有意義な事業となっている。



##### (2)異年齢で楽しむ料理教室

地域内にある福井農林高校の生徒たちと子どもたちとの交流の場として、毎年「たのしい料理教室」を行っている。本年度は6月24日と11月25日に開催。子どもたちが農林高校に出かけ、生活科学科の生徒さんの指導で、地元で収穫した野菜などを材料にして楽しく調理を行った。

毎年子どもたちの参加申込みが多く、事後の振り返りには「お姉さんたちに教えてもらってとても楽しかった。」「とてもおいしかった。」と書いている。

地域性を生かした異年齢交流の場として、今後も農林高校の協力を得ながら取り組んでいきたい。



#### 5 終わりに

様々な教育事業と各種団体への支援を通して地域づくりに取り組んでおり、受講生の多くは「楽しく生活に役立つ」「仲間が増え絆が深まった」などの思いで長年参加している。しかし、次代を担う若者や子育て世代の参加が少なく固定しないことが課題となっている。そのため、青年グループの育成や、講座・事業の開催時間や曜日の検討など、参加率を高めるための努力を行っている。

また、将来の啓蒙地区を担う小学生や中学生が気軽に公民館に足を運び、様々な学びや体験を通して地域愛や社会参加の意識を高められるよう、これからも事業の充実を図っていきたい。

公民館を拠点として、地区の各種団体が力強く連携して数多くの事業が行われ、地域の一体感を強く感じます。特に子どもたちを「地域の宝」として育て、学校だけでは味わえない様々な体験や学びの場を提供している点が素晴らしいと思います。今後も、ふれあい花壇の花のように明るく地域の輪が広がっていくことを願っています。